おいでよ！まちの図書館へ

●休館（室）日

（香我美図書館）（野市図書館）９月/3・10・13・17・18・23・24
（夜須図書室）９月/17・23・24
（吉川図書室）９月/1・2・9・16・17・23・24・30

9月おはなし会

野市
絵本読み聞かせ…8日（土）・22日（土）
おはなしの会…5日（水）・19日（水）

香我美
なんじゃもんじゃ…8日（土）・22日（土）
プチなんじゃもんじゃ…15日（土）

新着案内　香我美図書館より　☎ 55-0022

「読み聞かせ文庫・家庭文庫が来ます！」

高知県立図書館が行っている市町村立図書館への配本事業の「読み聞かせ文庫」・「家庭文庫」を、香我美図書館に貸し出してもらえることになりました。「読み聞かせ文庫」は長く読み続けられている絵本87冊と読み聞かせハンドブック1冊、「家庭文庫」は主婦の友社の「新実用ＢＯＯＫＳ」60冊です。

香我美図書館への貸出期間は２カ月です。ぜひご利用ください。

《大人向け》
- ◆アサッテの人　諏訪哲史/著
- ◆人は思い出にのみ嫉妬する　辻仁成/著
- ◆一瞬でいい　唯川恵/著
- ◆小池芳子の手づくり食品加工コツのコツ（１～４）　小池芳子/著
- ◆ありがとう、さようなら　瀬尾まいこ/著

《子ども向け》
- ◆やまんばあさんのむかしむかし　富安陽子/作
- ◆レアといた夏　マリー・ソフィ・ベルモ/作
- ◆元気が出る！世界の朝ごはん（１～５）　服部幸應/作

『めくってびっくり短歌絵本』（全5巻）　穂村弘/編

Pick up!

与謝野晶子や北原白秋から現代の歌人の短歌を、オノマトペ（擬音語・擬態語）・家族・日常・恋・動物といったテーマ別に紹介した本です。

ページを開くと、まず右ページに短歌、左ページに作者について書かれており、折りたたまれている左ページを開くと解説が読めるというしくみの本になっています。あまり肩ひじを張らずに読める短歌絵本。短歌が身近に感じられます。児童書ですが、大人の方もぜひ一読を！

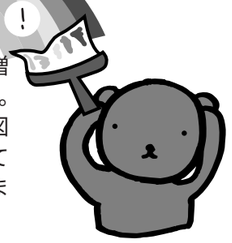
－９月の展示－
押し花展 ９月15日（土）～30日（日）

吉川図書室より　☎ 55-0525

図書室オススメ本

《大人向け》
- ◆憑神　浅田次郎/著
- ◆家・家にあらず　松井今朝子/著
- ◆風の盆幻想　内田康夫/著

《子ども向け》
- ◆犬の国ピタワン　田中マルコ/文・松井雄功/絵
- ◆おばけうんどうかい　矢玉四郎/作
- ◆すきすきちゅー！　イアン・ホワイブラウ/作　ロージー・リーブ/絵



地域の人からたくさんの寄贈本（大人向け）をいただきました。ありがとうございます。吉川図書室もたくさんの本に恵まれてきました。一度足を運んでみませんか？お待ちしています。

「アフリカ・オーストラリアゾーンの植物たち」の巻

毎月のいち動物公園の動物たちをご紹介してきましたが、今月はアフリカ・オーストラリアゾーンに植えられているちょっと変わった植物たちを紹介します。

のいち動物公園 ☎ 56-3500

▼ブラシノキ

オーストラリア原産の常緑樹で、5～6月にかけて写真のように、コップ洗いのブラシのような花（当園は鮮紅色）を咲かせます。これが名前の由来です。花の形や鮮やかな色は来園者の興味をひき、花の感触を楽しんでもらっています。

実は木についたままで落下しませんが、山火事などで木が枯れた時には実が割れて、中の種子が飛び出すという性質があります。これがブラシノキが生き残るための能力です。

▼バショウ

英名でジャパニーズバナナと言われるくらいバナナにそっくりです。（同じバショウ科です）来園者もバナナと勘違いする人がほとんどです。

木のように大きいのですが多年草で、地上部は毎年枯れ、春に芽を出し、高さ４ｍほどに成長します。秋にバナナそっくりの果実ができることがありますが、残念ながら食べられません。

▼リュウゼツラン

漢字で書くと「竜舌蘭」となります。竜の舌のようなとげのある多肉質の葉が名前の由来です。「一回結実性植物」といわれ、一度開花すると枯れる植物です。基本的に暖かい時期に開花するようですが、その際は、株の中心からニョキニョキと急速に高く茎が伸びだし、６ｍに達することもあります。その花は100年に一度だけ咲くといわれています。今年も初夏に３株開花しました。当園では植えてから10年しか経過していませんが各所で開花しています。

このように、のいち動物公園では、動物たちだけではなくさまざまな植物が植えられていますので、ぜひご覧になってください。

飼育係　勝木　泰

文芸　野市短歌会

昼顔の草からまるかの道に半夏生（はんげしょう）など無くなりて久し　野口　道

四十年勤め上げたる痩せをとこ青田の風を思ひっきり吸ふ　野村　静

掛軸の千疋蝶の乱舞見ぬ梅雨の晴間の日差しまぶしむ　小松　宏子

早苗よりジャンボタニシと根くらべようやく穂田の見回りとなり　国吉　寿亀

若夏の睡蓮の庭まぶしみてまなこ閉ずれば青の花浮く　上窪美津子

初孫がカタツムリさんとよく話す小雨の中を傘さしかけて　池上　美恵

枯れし木の根本に見ゆるひこばえよ世代交替伸びよ稚（わか）きら　野﨑千重子

食卓に桔梗初花一本の在りて朝餉の平凡ならず　池知つたえ

黒き雲少しかかりて束の間の満月を見つ夜更けの窓に　中根　純子

雨あがり若葉の映ゆるリビングに鳥も唄える佳き誕生日　金谷もと江

眼帯をとりし瞳にふかぶかと空の碧さよ浮雲の皓（こう）　窪田すず子

あの夏の心の色よふと思う少女が吾に見せし涙を　伊藤　誠子

かねて梅送りし嫁と家のぶん赤じそをもむ半夏生きて　野村　潤子